

# 帰ってきた 木田金次郎！

佐川 昭

ついにこのような名前をついた展覧会が開かれることになった。

私が昨年の本欄に金次郎の絵のことを掲載して1年が経過した。父母から受け継ぎ私どもが所有している金次郎画伯のあの「ホリカツブ岬」の絵が、岩内の木田金次郎美術館に飾られることになったのだ。1952年作なので実に70年ぶりの里帰りだ。

ここに至るまでにはいろいろな人との出会いや繋がりがあつたことが分かった。前回の原稿を読んでもくれた人々からの反響、反応がすごかった。そのほとんどは当院通院中の患者さんたちからだ。私の原稿はそれ以外の人達の目には触れていないので、この狭く限られた空間で会う人々から得られた情報のみなのだが、その内容がすごい！この絵にはまさに金次郎さまと言いたくなるような力があつたのだ。これからそれらの物語について語ろう。

初めに登場するのは前回にも書いたSさんだ。岩内に実家があり木田金次郎美術館とも繋がりが深く、ご尊父所有の図録に私どもが所有している絵とそっくりのものが載っているのを知らせてくれた方だ。

その後同美術館の館長さんにもお会いし情報を伝えてくれた。私はその瓜二つの絵が美術館に並んで飾られたらどんなに素晴らしいだろうと、前回の原稿に結んだのだ。

次に登場するのはMSさんだ。昔のことであるがご尊父が岩内協会病院に勤務され、木田金次郎画伯が患者さんだったとの

こと。その後私の父が院長をしていた当時の江別国保病院へ移られた。さらに彼女の家には金次郎の絵が今でも2点飾られている。①岩内から江別、②医師同士の繋がり、③金次郎の絵を所有、これらの3点を線で結ぶと、当家に金次郎の絵があつた理由が判明するのではと一瞬心が躍つたが、結局昔のことでは知る人もなく、今も不明のままである。ただ北海道大学医学部第一内科初代教授の有馬英二先生は、木田金次郎画伯との繋がりが深いと美術館館長に知らされていたので、MSさんのご尊父も私の父もかつての有馬内科の一員だったから、その繋がりがかも知れないと思うようになってきた。

そして3番目の登場者はKMさんだ。彼女のご母堂が金次郎夫人と北大看護学校で同期だったとのこと。これは驚きだ！こんなに近い存在の人がいたとは！さらに彼女自身も金次郎画伯のご令嬢と同じ女学校で2期下とのこと。私はただこのクリニックで座つて、受診に来られた人と話しているだけなのに、こんなに繋がりの強い話が耳に入るなんてと驚いてばかりだ。

そうしているうちに、患者さんを通じてNHK関係の方の耳にも入り興味を持つていただき、7月にテレビ番組になることになった。まさに金次郎画伯の絵が持つパワーだと感じざるを得ない。木田金次郎美術館館長も、標題の「帰ってきた木田金次郎」展を企画してくれた。7月1日から11月6日まで開催することなので、ぜひ皆さまも岩内へ足を運んでいただきたい。そして有馬英二教授と金次郎、さらに私の父との関係をご存じの先生がいらつしやいましたら、ぜひ新しい情報を私にお与えください。

特に今回の場合、本欄に掲載できる意味がそこにあるのだと、強く感じた次第である。(佐川昭リウマチクリニック)

## 余話

### 藻岩山からの月影

我が家の2階のベランダからは、東側にいつも藻岩山が見える。1年中季節の移り変わりを楽しませてくれる存在だ。

ある日眠りにつこうとふと山を見ると、変な光が見えている。夜中なので日の出ならぬ月の出が始まっていたのだ。夢中で遠くでカメラに収めた。手前の木の影を写し取ることができた。よく見ると上に伸びた変な影が写っている。

翌朝同じスポットを探し出して拡大してみると、なんと同じ形の枯れ木だということが分かった。夕べの月はまさにここから昇ってきたのだ。面白い所から出てきてくれた。

この位置からの写真はもう2度とは撮れないだろう。私の宝物がまた1つ増えた！



月影の藻岩山 2022.6.19. 00:02



翌朝の藻岩山 2022.6.19. 05:59